

平成26年度国際消防救助隊連携訓練・セミナー

参事官

国際消防救助隊は、「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」に基づき、海外における大規模災害時に被災国政府等からの要請に応じて派遣される国際緊急援助隊の中核として被災地域で救助活動を実施します。これまで18回の派遣実績があり、直近では平成23年2月のニュージーランド南島地震災害に派遣されたところです。

国際消防救助隊が海外の被災地で円滑に救助活動を実施するためには、隊員の一人ひとりが、国連を中心として発展している他国救助隊等との連携・調整手法や、国内とは異なる文化・風習などの活動環境下で適切かつ安全に活動するための知識・技術を習得しておく必要があります。

このため、消防庁では、平成24年度から国際消防救助隊の連携訓練を推進してきたところであり、今年度は、消防庁との共催事業として、横浜市消防局及び仙台市消防局が近隣の消防本部からの参画を得て、それぞれ創意工夫を凝らした内容の連携訓練を実施しました。

横浜市の連携訓練では、海外派遣シミュレーション訓練（野営含む）が行われ、訓練アドバイザーを中隊長、小隊長に配置しての半ブラインド型想定訓練を実施。他機関からの参加を含み4中隊8小隊編成の総勢124名の実施隊員で訓練を行いました。

また、仙台市の連携訓練では、小隊の引き継ぎを意識した想定訓練、基本訓練（CSM、ショアリング）及び震災の実事例を元にした想定訓練（津波に流された車両からの救出）を実施。他機関からの参加を含み4小隊編成44名の実施隊員で訓練を行いました。



①結団式の様子



②想定訓練の様子



③想定訓練の様子



④想定訓練（津波想定）の様子

◎ 横浜市消防局

- 1 実施日 平成26年8月14日（木）、15日（金）
- 2 実施場所 横浜市消防訓練センター
- 3 参加隊員 国際消防救助隊員 83名（28消防本部）
神奈川県警察本部 8名
海上保安庁 9名
国際緊急援助隊救助チーム医療班 17名

救助犬訓練士協会 5名
 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 2名

◎ 仙台市消防局

- 1 実施日 平成26年9月11日 (木)、12日 (金)
- 2 実施場所 仙台市旧消防ヘリポート
- 3 参加隊員 国際消防救助隊員 43名(9消防本部)
海上保安庁 1名

また、平成26年12月2日 (火) から4日 (木) の3日間、滋賀県大津市において、「平成26年度国際消防救助隊セミナー」(消防庁、全国市町村国際文化研修所共催)を開催しました。セミナーには、国際消防救助隊登録消防本部のうち76消防本部から79名の国際消防救助隊員が参加しました。今回のセミナーは各国際消防救助隊登録消防本部から指導的立場にある隊員を対象に、各本部における訓練に際し、統一的な指導のもと、質の高い訓練ができるように、指導者の育成に重点を置いた研修としました。

初日は、JICA、国際緊急援助隊救助チーム技術検討員、国際緊急援助隊救助チーム医療班から講師を招き、2015年改正予定のINSARAGガイドライン、JDR救助手法の変更点等及び医療班と救助隊員の連携について講義を行いました。



⑤講義の様子 (黒川参事官)

2日目は、京都市消防局の京都市消防活動総合センターにおいて、平成26年11月に国際消防救助隊登録消防本部に配布した、「国際消防救助隊訓練指導要領2014年度版」と前日の講義 (JDR救助手法の変更点) を基に、ブリーチングとクリビングを重点的に技術習得研修を行い、クリーンブリーチング (2カ所)、ダーティブリーチング、クリビングの4ブースを中隊 (20人) ごとにローテーションし、指導のポイントを学びました。

最終日は、横浜市消防局、仙台市消防局及び地区内の登録消防本部が持ち回りで定期的に連携訓練を実施している九州地区の代表として福岡市消防局の事例発表と、消防庁から来年度以降の国際消防救助隊の教育訓練等についての説明及び各小隊から振り返りの発表を行い、セ

ミナーを終了しました。

今後とも消防庁では、国際緊急援助隊救助チームの中核である国際消防救助隊員として必要とされる知識や技術等を修得する機会を提供していくとともに、各登録消防本部において質の高い訓練が実施されるよう必要な支援に努め、その実力を十二分に発揮できる体制の強化を図ってまいります。各消防本部におかれましては、連携訓練・セミナーへのご理解、ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。



⑥クリビング



⑦クリーンブリーチング



⑧ダーティブリーチング

問合わせ先

消防庁国民保護・防災部参事官付 柳原
 TEL: 03-5253-7507